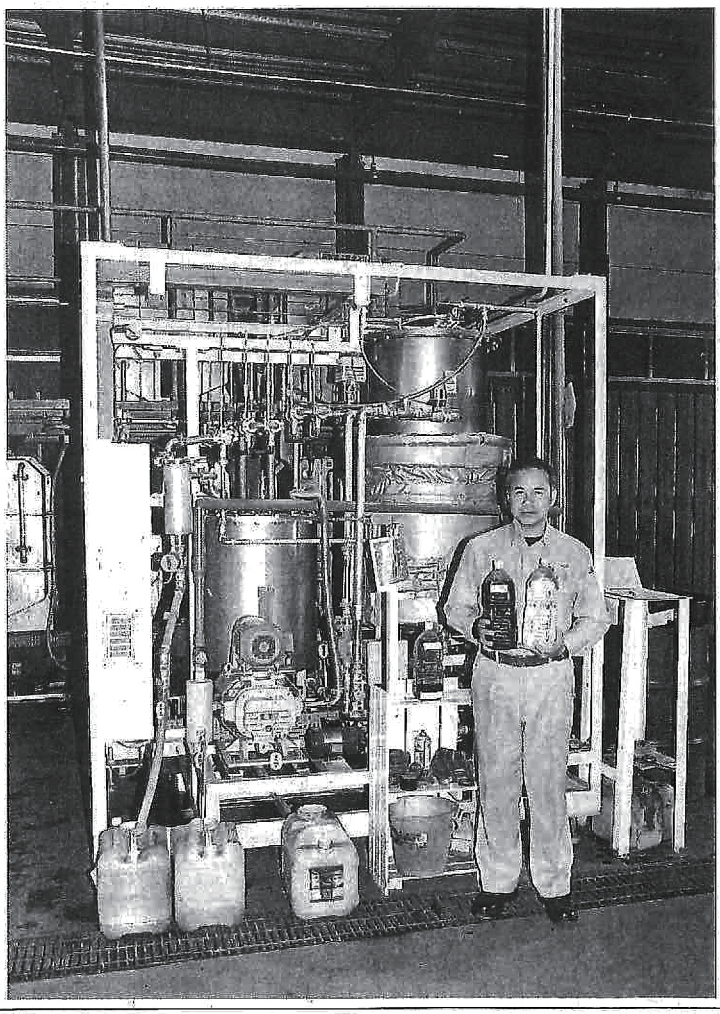
CO_2排出量〝ゼロ〟に

廃食油やカーボンオフセット利用

大崎・そおリサイクルセンターが国内初

リサイクル率日本一の大崎町、市レベルで1位の志布志市などの資源ごみを回収・中間処理するそおリサイクルセンター（大崎町）は、企業としての地球温暖化対策でも最先端の取り組みを続けている。廃食油を精製して回収車や堆肥工場の重機を動かすほか、削減しきれなかった二酸化炭素量に対してはカーボン・オフセットを利用。中間処理業者として国内で初めて排出量を理論上ゼロにした。



廃食油を軽油の代替燃料に変える蒸留装置＝大崎町のそおリサイクルセンター

カーボン・オフセットは、二酸化炭素の削減・吸収量をクレジット（証書）として売買し、排出を埋め合わせる仕組み。そおリサイクルセンターは、事業活動に伴う2013年度の二酸化炭素排出量597㌧分の証書を今年3月、大崎町や東日本大震災の被災地から約50万円で購入。職員41人の通勤車両から出た二酸化炭素量に相当する年間57㌧分も約8万5千円で購入した。県環境技術協会によると、通勤を含め広くカーボン・オフセットに取り組む企業は全国でも珍しいという。

同社は毎年、曽於地域2市1町から回収した廃食油を、各自治体から購入。蒸留装置で精製し、回収車10台と重機4台の代替燃料にしている。13年度は3万8350㍑を使い、二酸化炭素を約百㌧減量した。

県の地球温暖化防止活動推進インストラクターでもある宮地光弘社長(49)は「日本一のごみ減量に取り組む地域の委託業者として、今できることを地道に続けたい」と話す。

（小田洋太郎）